

# 一本歯の足駄

(標準語)



国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：やざわ ゆな  
カラーリング：つしま けいこ

昔〃、あるところに、ヨネという母親と、作造という息子と二人で暮らしていました。貧乏でありましたが、二人で小さな田と畑を耕して仲良く暮らしていました。ある時、ヨネが病気になりました。医者に見てもらいましたが、なかなかすぐには治りません。二人で爪に火を灯すようにして貯めたお金がありましたが、医者代と薬代で、すぐに無くなりました。

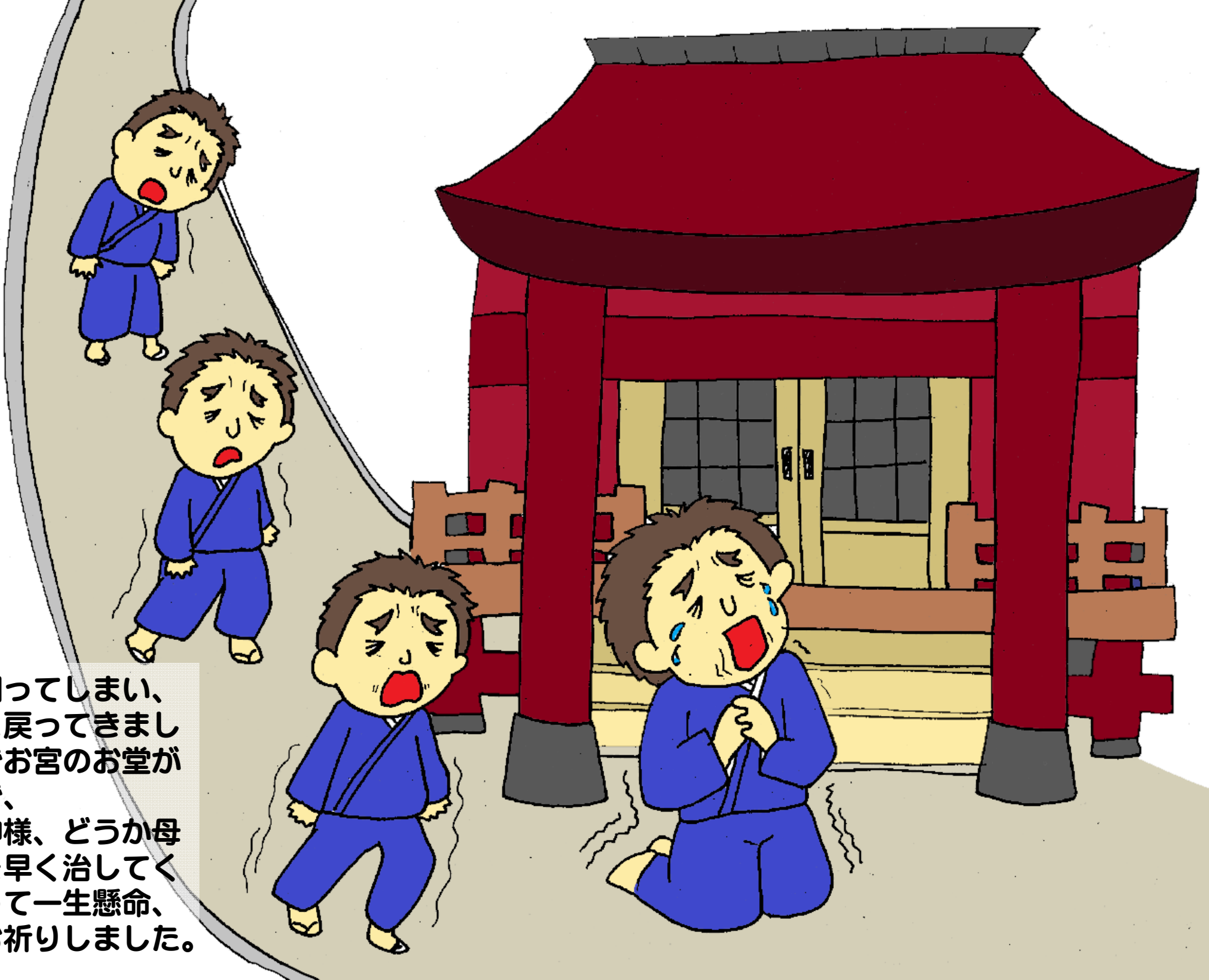


困ってしまった作造は、ケチだけれど金持ちの親類のおじさんに頼みに行って、やっとお金を少し借りてきました。



そうしているうちに、そのお金も無くなってしまい、仕方なく、又借りに行きました。親戚のおじさんは『お前、借りたお金を返さないうちに、又、貸せってか、駄目だ、駄目だ』と貸すどころか、前のお金を返せ、返せと言いました。

作造は困ってしまい、  
トボトボと戻ってきました。  
途中でお宮のお堂が  
あったので、  
『神様、神様、どうか母  
親の病気を早く治してく  
ださい』って一生懸命、  
一生懸命お祈りしました。



しかし、医者に払うお金はどこにもありません。お堂の前にぺたっと座って『困ったなあ。どうしたらいいのか、どうしたらいいのか』と考えているうちに、畑仕事と、母親の看病で疲れてしまい、ウツラウツラと眠ってしまいました。



そうしたら、お堂の戸がスーッと開いて、そこから白い髪で長い髭を垂らした爺様が出てきました。その爺様が作造に聞きました。

『こらこら、お前、何を心配しているのか』と言うので、『実は、これこれこうゆう訳で、母親の事、心配で心配でたまりません』と話しました。



そうしたら、髭の爺様が  
『そうか、そうか、そうしたらお前に、この一本歯の足駄を呉れよう。この足駄を履いて転べば、  
小判が出てくる。だが、転ぶたびに、自分の背が縮まって低くなるから、どうしても要る時にだけ  
に使い、やたらと履いたらだめだよ。わかったか』と言いました。



ハット目をさまして見ましたが、それは夢でした。でも、目の前に一本歯の足駄が本当に置いてありました。履いてみたら、一本歯なので、すぐに、テッコラと転びました。

そうしたら、チャリンと、小判が1枚出てきました。びっくりして立ち上がると、又転びました。そうしたら、又、チャリンとでてきました。転ぶとチャリン、転ぶとチャリンと、次から次に、小判がでてきました。



作造は医者に行って、たまっている薬代を払って、今度は親戚のおじさんのところにも、借りたお金を返しに行きました。





午前中に追ってやった作造が、今度はピカピカの小判を持ってお金を返しに来たので、おじさんは怪しんで、泥棒でもしたのかと思い、『作造、お前そのお金はどこから出したんだい、盗んできたんじゃないよな』と聞きました 正直者の作造は、泥棒したなどと思われたくないので、本当のことを話して教えました。

おじさんは、びっくりして、今度は『作造、作造、俺にもその足駄を一晚でもいいから貸してくれ』と言いました。作造は嫌でしたが、前にお金を貸して貰った恩もあるので、仕方なく『じゃー、一晚だけだよ』と、おじさんに足駄を貸しました。

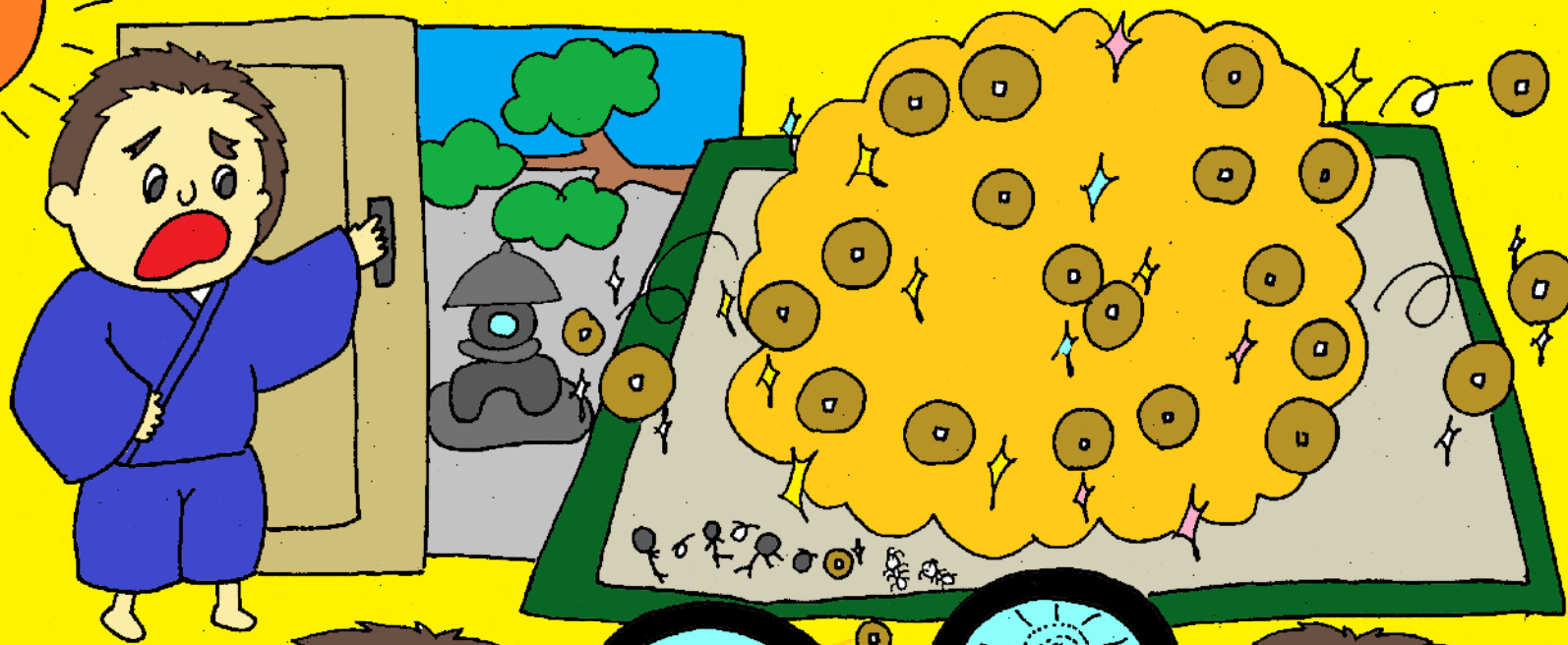
おじさんは喜んでしまっ、日の暮れるのを待つて、家族も使用人も寝てしまっから、門を閉めて、門もしっかりしめて、中庭に大きな風呂敷を広げて、その上で足駄を履いて、ゴロツと転びました。チャリーンと小判が出てきました。おじさんは、作造の話が半信半疑でしたが、本当に

小判が出てきたので、さあ、有頂天になってしまい、ゴロツチャリン、ゴロツチャリンと、次々に小判を出しました。




そのたびに、自分の背が低くなっていくことも、何も気にせず、ゴロツチャリン、ゴロツチャリンと、夜が更けるのも忘れて、転んだり、立ったりしていました。

次の日の朝早く、  
作造は足駄を返して  
もらいに、おじさん  
の家に行きました。  
そうしたら、  
庭に小判が山盛り  
になっていましたが、  
おじさんが居ません。



よく見たら、隅の方に、キリギリスよりもっと小さくなった男が居ました。おじさんでした。欲張りなおじさんは、虫のようになって、まだ止めないでゴロツチャリンをやっていました。作造は呆れて見ていたら、おじさんは蟻のように小さくなってしまい、そのうち消えて見えなくなりました。



作造はその小判を風呂敷に包んで持って帰り、母親に良く効く薬を買って飲ませ、

村の人にも病気で困っている人があれば、薬飲ませて、医者にも見せてやりました。

村の人達みんな、作造のことを幸せをくれる人だということで、『しあわせ作造』と呼んで、有り難がったそうです。

人の欲という者は限りないもので、お金をいくらあっても、その使い道がわからないと、みんな死に金だ。貯めてばかりで、それを人に施（ほどこ）さなければ、逆にお金にころされる。

みなさんも、お金の亡者になれば、だめですよ。

おしまい。